

議事要旨

会 議 名	令和5年度（2023年度）第2回 八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会	
日 時	令和5年（2023年）10月27日（金）午後6時30分～8時00分	
場 所	八王子市保健所（たま未来メッセ）502会議室	
出席者氏名	参 加 者	<p>東京都立大学 法学部 教授 大杉 覚 氏 法政大学 社会学部 准教授 谷本 有美子 氏 長房中学校区地域づくり推進会議参加者（中学校PTA） 野副 弘毅 氏 川口中学校区地域づくり推進会議参加者（町会自治会） 荒木 紀行 氏 みなみ野中学校区地域づくり推進会議参加者（NPO団体） 野牧 宏治 氏 南大沢中学校区地域づくり推進会議参加者（民生委員） 吉村 由美 氏 一般社団法人 八王子冒険遊び場の会 理事 足立 純一 氏 NPO法人 dattochi home（ダットッチホーム）理事 田中 久乃 氏 市民活動推進部長 小山 等 福祉部長 松岡 秀幸 都市計画部長 守屋 清志 学校教育部長 今川 邦洋 総合経営部地域づくり担当部長 新納 泰隆 総合経営部地域づくり担当課長 伊東 健一</p>
	事 務 局	<p>総合経営部経営計画課地域づくり担当 主査 興梠 翔大 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主査 三井 直義 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 橋本 宏子 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 和田 健太 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 山北 晴奈</p>
欠席者氏名	なし	
議 題	(1) 「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について (2) その他	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配布資料名	<p>資料1 「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について 資料2 まとめていきたい内容と具体的な改定作業との関係性 資料3 新しい地域づくり推進体制のイメージ図 資料4 八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査 参考資料1 地域づくりフォーラムにおける大杉先生発表資料 参考資料2 地域づくりフォーラムにおける谷本先生発表資料 参考資料3 宮崎市 地域まちづくりのあり方検討に係る報告書等</p>	

次第1 開会

<配布資料の確認及び開催方法の説明>

本懇談会は公開して行うこと、議事要旨における市職員及び座長以外の参加者について発言者名を記載しない形で作成し市ホームページで公開を行うこと、会議風景を市ホームページで公開するために写真撮影をすることについて、参加者より了承を得た。

次第2 議題

(1)「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について

【地域づくり担当課長】

・資料1、2、3、4について説明。

【座長】

・「1 前回懇談会までの振り返り」について、前回懇談会の内容やフォーラムでの発表について、質問や意見はあるか。

【参加者】

・フォーラムでの大杉先生の発表で、世田谷区の実情について「既に参加しているステークホルダー向けの施策は充実していても、『掘り起こし』や『連携・交流』に向けた施策不足」とあるところについて、地域ではすでに多くの活動を行っているところである。不足しているということであれば、具体的にどういった活動がより必要か伺いたい。また、地域づくりがどういったものかということ先生が発表スライドでわかりやすく説明しているので、市には、地域づくりの目的を明らかにしてほしい。

⇒【座長】世田谷区の話というのものもあるが、地域の人材を取りこぼしているという話は、地域ではなく行政の体制を指して述べていること。つながりやきっかけをつくる場というものが必要である。

⇒【座長】今回の説明資料では、市も地域づくりの目的を意識して作成しており、この後の議事の中でご意見を聞いていきたい。

【座長】

・「2 新・基本方針としてまとめていきたい内容」について、前回懇談会で示された新・基本方針の全体像に地域づくり推進事業の必要性をしっかりと盛り込んでいくことについて、質問や意見はあるか。

【参加者】

・基本方針の冒頭で、地域づくりの必要性を記載するのは大事なこと。

【座長】

・「3 具体的な改定作業」のうち、資料1の15～23ページ及び資料2に第1回懇談会で挙げた課題とそれに対する方向性、資料1の18ページに改定作業の全体図、それ以降のページに詳細な方向性が示されていることについて、質問や意見はあるか。

【参加者】

- ・資料1の16ページ、課題2の方向性に挙がっている「地域づくり推進会議において解決に向けて取り組む行政課題を設定」するのは難しいが、必要なことである。地域の課題は次から次へと出てくるため、それを地域で潰しているのが現状。このモグラ叩きのような状況を防止できる機能を行政の施策の中に落とし込めればよいが、行政が市全域の状況を把握して施策に反映させるのは難しい。推進会議の役割として、行政が新しい施策を実行する際、この地域ではどのような形で運用するのが良いか、行政がヒアリングできる接点として機能するのが現実的かと思う。また、どれだけ課題の解決に取り組めるかも地域によって差があるため、地域ごとに強弱があってよい。
- ・資料1の23ページ「掘り起こす」にある(3)地域の担い手の養成講座については、講座のやり方や中身が重要。座学で終わってしまい、実際の担い手として活動するアクションにつながらないことが多い。講座がどの程度地域で活用できているかを実証する必要がある。実践までのフォローアップが必要であり、そのための行政側の体制づくりが重要。
 - ⇒「はちおうじ志民塾」は、そのような場と考えられる。半年間で人材を育て、実際に地域活動の見学などにも出向き、卒塾生200名程が活躍している。志民塾のカリキュラムの一つとして地域づくりを扱うのはどうか。
 - ⇒【座長】志民塾の今までの実績に対し、評価に関わるような検証を行うのは良い。他の講座においても同様のことが言える。
- ・「掘り起こす」に関して、既存の活動は参加のハードルが高く感じられるため、より第一歩を踏み出しやすいよう、すそ野を広げられるような活動も必要では。例えば、池袋などでは清掃活動をした後にコーヒーを飲む「CCC（クリーンアップ・コーヒー・クラブ）」という活動が広まっている。このように緩くつながるオシャレな取り組みは、若い人の掘り起こしになるのでは。
 - ⇒【座長】世田谷でも「用賀ブルーハンズ」という清掃活動を20~40代の方が任意で行っている。町会自治会や商店街等とつながってこのような活動を行うことが、世代交流や掘り起こしとなるのではないか。「掘り起こす」に挙がっている担い手講座などはあくまで例示ということで、幅を持たせて「掘り起こす」手段を考えたほうが良い。
 - ⇒「ゴミ拾いをしよう」と言っても人は来ないが、「おしゃべりしよう」と言い換えると人は来る。ゴミ拾いはあくまで手段であり、人を集めるきっかけにすぎない。
 - ⇒緩さと楽しさは大切。また、何かをやるという目的の陰で、実はみんなが同じ場所にいること自体に意味がある。このような考え方や見せ方は響くのでは。
- ・「掘り起こす」という視点から人材バンクに関して、既存の活動をしている方が親和性を見出して新たな活動に参加するが、少し目的が合わなかったり、忙しくて実際の活動に参加できなかったりということが多くある。既存の事業を活用する際は、そのような場合があることを考慮した工夫が必要ではないか。
- ・資料1の21ページについて、地域で個別にやっている活動も、推進会議の場で交わることでよりつながりが広まる。個別の活動についても調査し、推進会議に活かす取り組みをすると良いのでは。
 - ⇒【座長】行政の取りこぼしというのがまさにこの部分。それぞれの活動がつながる場を作ることが大切。

- ・資料1の17ページ、課題5の「地域づくり推進事業」の体制や「地域担当職員制度」の再構築とある部分について、再構築の意味を知りたい。また、見直しについても知りたい。
⇒【地域づくり担当部長】再構築とあるが、実際には構築できていない。案は作っていたが実現に至っておらず、引き続き検討を行う。地域とかかわっていただける職員ということで、地域担当職員の育成をしていきたい。
- ・八王子市では地域に住む職員が災害時の避難所設置を行うスキームとなっており、これは市内在住の職員が多い八王子市の強み。災害時避難所のスキームを応用し、地域担当職員制度を導入できないか。
⇒【座長】内部でよく検討していただきたい。地域担当職員については、事例は多くある。選任の場合も兼務の場合もあるが、大抵はうまくいっていないことが多い。

【座長】

- ・次に、資料1の24～26ページの「地域ごとの状況把握」について、各中学校区の状況が記載されている。こちらの内容について、各推進会議参加者の皆さんから一言ずつお話をいただきたい。

【参加者】

- ・推進会議の目的を振り返る必要があると感じている。お祭りなどのイベントは、地域をつなげるためのツールであると改めて認識し始めてきた。
- ・南大沢も高齢化してきているが、1・2丁目にそれぞれ町会があり、かなりサロン活動があり、比較的高齢者が元気に外に出ているように思う。
- ・つながりの希薄化、担い手の不足ということが言われているが、年に2回開催されるクリーンデーは、子どもから高齢者まで大勢集まるイベントとなっている。積極的に地域活動に参加している人もいる。
- ・鏈水小学校では、社会科見学の一環で子ども達が地域のサロンを見に行く取組をしている。推進会議も学校と連携して同様の取組を行えば、子どもの頃から地域のことを考え、活動する人づくりに繋がるのではないかと。
⇒【座長】学校との連携は、ハードルが高いが重要な取組。小・中学校はもちろんだが、同じ地域にある高校・大学との連携もぜひ考えていただきたい。
⇒高校と連携している事例もある。川口では、都立八王子北高校が地域探究校になっている。また、市の指定避難所にもなっていることから、先日の推進会議に校長に出席してもらい、地域探究の取組や避難所開設に当たっての学校の考え方等を伺い、地域との連携を図っている。
- ・長房では、定期的に必要なの食堂をやっている。ただ、目的やターゲットが不明確になっているので、そこを明確にしたうえで今後取組んでいきたい。
- ・コピオ長房を中心にハロウィンイベントを開催する。長房には複数の団地があり、2年前から1つの団地がハロウィンイベントをはじめたのだが、今年複数の団地が合同で開催することとなった。費用面などの課題を解消しながら、ゆくゆくは推進会議主催で行いたい。みんなの食堂やハロウィンイベントを行うことで、子どもから高齢者までつながりを深くしていきたい。
⇒【座長】定期的なこういう取組が行われることが重要。あそこにいけば、あの人に会える、体験できるというような場があると、今度行ってみようという人が出てくる。

⇒【座長】あまり目的を意識しないことも重要。「地域課題」といっても、地域全体で話し合えないといけないことばかりでなく、個別のつながりのなかで対応できることもある。そういう場を徐々に広げていくことが大切。

- ・川口中学校区は榎原中学校区との連携が課題。推進会議は中学校区単位だが、住民協も高齢者あんしん相談センターも、消防団も旧川口村の単位になっている。地域づくりを考えた時に、川口中学校区と榎原中学校区が分断されてしまっているのはおかしい。今後、推進会議の単位が「原則、中学校区」と変更されるということなので、そこはぜひ改善してほしい。

⇒【座長】地域づくりの単位をどうするかというのは非常に難しい。もっとおおらかに取組ごとに柔軟に区分けが変更できるように、モデル地区だからこそ検証すべき。

- ・同じ川口でも川口中学校区と榎原中学校区で、市の地域づくりの進度が異なる。同じ「川口地区」なのだからバランスよく進めてほしい。
- ・マルシェなどの取組が推進会議の議論の中心となっており、本来話すべき地域内、また地域と行政間でどのような課題があるかを話す時間がない。今市として40ページに記載されている体制に整理をしているとのことなので、今後は本来話すべき課題を議論していきたい。
- ・みなみ野の課題として「コミュニティの希薄化」が記載されているが、必ずしもネガティブな要素ではない。みなみ野はニュータウンであるため、転入者が多く、地縁で強くつながりたいと望む人は少ない。それぞれが望むいろいろな距離感で地域と関われるコミュニティをゴールにすることが重要。
- ・イベントなどを開催しつつ、地域課題について行政と冷静に関わり、話し合える機能を推進会議に内蔵させたい。
⇒【座長】つながりが濃密な地域ほど希薄にしたほうが良いこともある。いろいろな関わり方がある。どのようなつながりが最適なのか、各々が望むタイミング、距離感で地域と関わるためには、どのような方法があるか。ぜひ地域の皆さんで検討していただきたい。
- ・それぞれの地域の色があることがよくわかった。それぞれの地域の特色を生かし進めていくことが重要だと感じた。
⇒【座長】行政のやることは横並びになりやすいため、ぜひそれぞれの地域の違いが活かされるような取組にしてほしい。

【座長】

- ・次に、「3 具体的な改定作業」のうち、資料1の31～36ページに、各団体の役割や行政が担う人・お金・場所の支援についてのまとめ、各所管の地域づくりとの関係などが掲載されている。こちらの内容について、本日市から出席している各担当の部長職に対して、質問や意見はあるか。

【参加者】

- ・町会自治会の加入率は下がっているが、地域の情報を共有することは非常に重要。町会など既存組織への加入・非加入に捉われず、その地域に住んでいる人たちすべてを対象に、地域の情報を共有できるような体制づくりを市が取り組むことについて、どう考えているか。
⇒【市民活動推進部長】市が進めている地域づくりがまさにその体制づくりにあたりと考えている。加えて、地域情報に関する周知や把握の手段としては、今そこまで発展していないが、DX

の活用などは今後期待されるところ。

- ・小中連携について、2つの中学校に進学する可能性がある小学校において、一方の中学校との連携に偏りが見られるのではないか。

⇒【学校教育部長】小中一貫教育の中で、小学校における児童に関する情報は中学校でもしっかり共有しており、小中一貫教育グループ外の中学校を選択した場合も共有はしている。中学校間の連携についても、近接校は年に1回連携するよう周知し行っており、ご指摘の件は、この仕組みの中で改善もしていきたい。

【座長】

- ・ここで、先進地区である宮崎市の視察報告をお願いしたい。

【地域づくり担当部長】

- ・参考資料4の内容を説明。

【参加者】

- ・構造化しすぎているように感じる。

⇒【地域づくり担当部長】地方自治法に基づく条例を制定して協議会を設置している。宮崎市は、現在、本市でもモデル地区で進めていこうとしているように、協議する側と活動する側を分けて活動しているが、17年程地域づくりの取組を進めても、担い手不足などの課題は継続している様子。

- ・こなすことが目的となってしまう、地域のダイナミズムが失われてしまっている印象。

⇒【地域づくり担当部長】「地域自治とは何か」ということを視察でも伺ったところ、これまで住民主体で取り組むということをしており、「自分たちで自分たちのまちをつくっていく」ことが宮崎市の地域づくりということだった。

【座長】

- ・予算が全体で8,500万円程、人口によって差配され1地区当たり170~700万円くらいということだが、かつてはコミュニティ税なども導入していたものの使い切れず、今は行っていない。人口が多い分コミュニティが希薄で活動が少ないところもあれば、人は少ないものの活動が盛んというところもある。この十数年、全国様々な地域がいろいろな取り組みを手直ししながら行っている。

【座長】

- ・次に「4 推進会議のあり方（事務局案）」では、資料3と合わせて新たな地域づくりの形について、イメージ図や体制図を示しているが、質問や意見はあるか。

【参加者】

- ・資料1の39ページ、5つの柱の5番目「着実な解決につなげていく」という表現は、地域の負担になるのでは。新しい課題は次へ次へと出てきてしまうものなので、表現を直しては。

⇒【参加者】「解決の糸口を見つける」くらいか。

⇒【座長】「課題を共有する」ということだろう。その課題に対し、専門で活動している人の声や、地域を越えて連携し、知恵を活かすといった視点を追加してもよいのでは。一つの地域の中で閉じてしまっている印象がある。

- ⇒【地域づくり担当課長】民間も入るという意味で、「共創」という表現はどうか。
- ⇒【参加者】イベントを行う時、特定の地域を対象にするということはないが、すでに連携している地域の小学校と、そうでない別の地域ではやり方が異なってくる。
- ⇒【座長】地域づくり推進会議の体制を作ったことで壁もできてしまうというのは避けたい。推進会議が作られることで、他とのかかわりが広がるような仕組みが必要。

【座長】

- ・次に「5 スケジュール・今後の予定」について、当初のスケジュールより懇談会開催期間が延びるとい話だかいかか。

【参加者】

- ・ある程度、じっくり納得がいくところまで一緒に議論・検討していきたい。

【座長】

- ・この懇談会でどこまで考えていくのかは、今後検討する必要があると考えなければいけないが、一旦スケジュールについてはご了承いただいたということでよいか。

【参加者】

- ・(異議なし)

(2) その他

【座長】

- ・その他、何か取り上げたい事項はあるか。

【参加者】

- ・(特になし)

次第3 事務連絡

事務局より、第3回懇談会は1月下旬を予定しており日程は別途調整すること、意見があれば懇談会終了後にメールで送付する「意見書」を提出してほしいことを説明。

次第4 閉会

以上